

2016年2月期 第3四半期 (2015年3月1日～2015年11月30日)

# 決算説明資料







2016年1月12日



©石井あゆみ／小学館  
©2016 フジテレビジョン 小学館 東宝 FNS27社

阪急阪神東宝グループ

# 2016年2月期 第3四半期（累計） 営業概況

	2015年2月期 (2014年3月～2014年11月)	2016年2月期 (2015年3月～2015年11月)	前年同四半期比	増減率
営業収入	1,523億1千1百万円	<b>1,750億2千9百万円</b>	227億1千7百万円	14.9% 
営業利益	233億8千6百万円	<b>322億9百万円</b>	88億2千2百万円	37.7% 
経常利益	250億3千7百万円	<b>336億9千3百万円</b>	86億5千6百万円	34.6% 
四半期純利益	170億5千7百万円	<b>208億7千8百万円</b>	38億2千万円	22.4% 

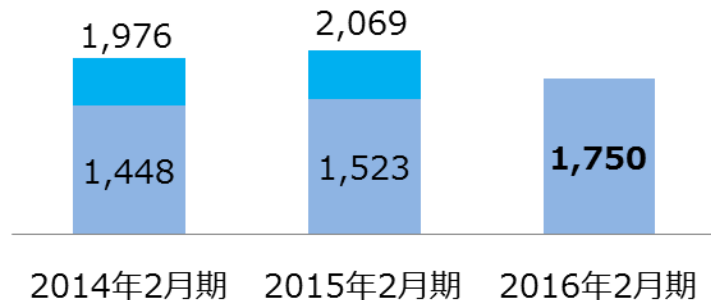
## 【第3四半期の営業概況】

主力の映画事業では、夏休み公開作品『バケモノの子』『HERO』『ジュラシック・ワールド』などが引き続き高稼働したほか、『アンフェア the end』『図書館戦争 THE LAST MISSION』『バクマン。』などの秋公開作品もヒット。演劇事業では、『DREAM BOYS』『ABC座 2015』がともに完売したほか、再演となった人気ミュージカル『RENT』、仲間由紀恵を主演に迎えた『放浪記』も大盛況。不動産事業では、4月オープンの「新宿東宝ビル」が業績に貢献したことにより第3四半期も前年同期比で大幅な増収増益を記録。

# 營業概況3力年比較

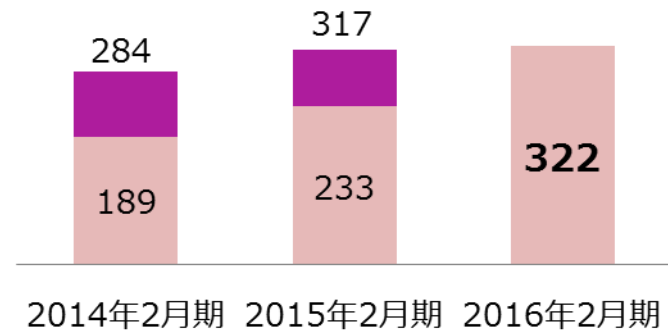
營業收入 (単位：億円)

■ 第3四半期連結累計期間 ■ 期末



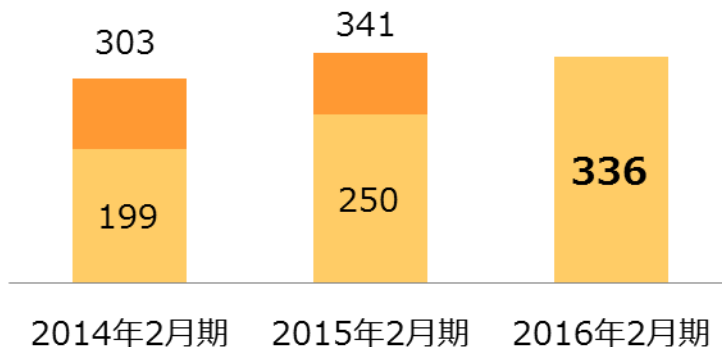
営業利益 (単位：億円)

■ 第3四半期連結累計期間 ■ 期末



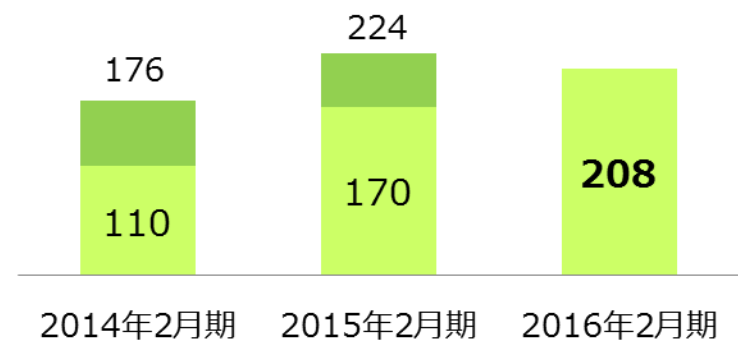
経常利益 (単位：億円)

■ 第3四半期連結累計期間 ■ 期末



当期(四半期)純利益 (単位：億円)

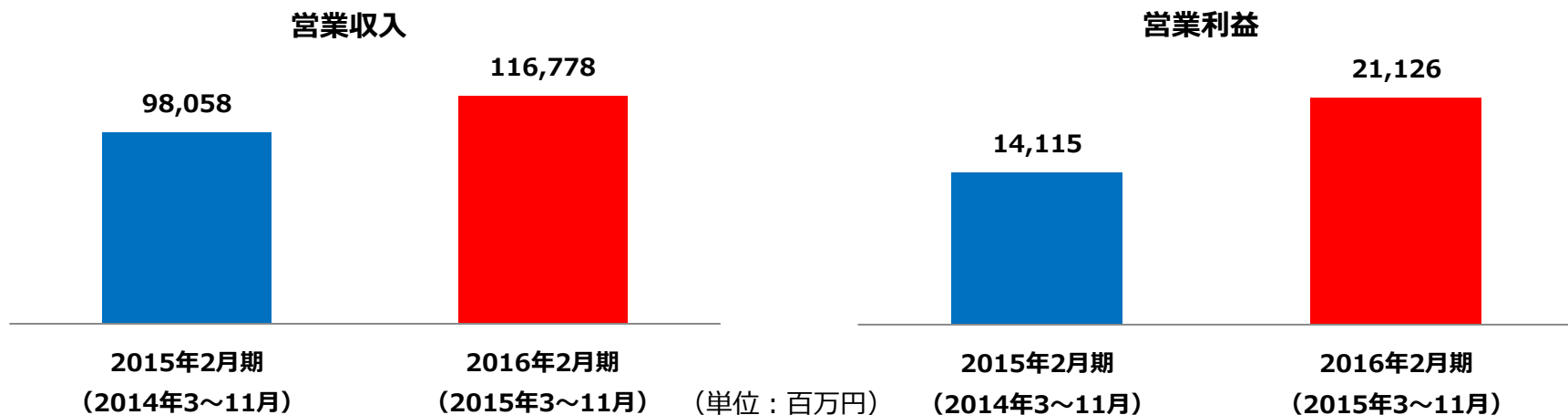
■ 第3四半期連結累計期間 ■ 期末



# セグメント別業績一覽

	営業収入 (単位：百万円)			営業利益 (単位：百万円)		
	2015年2月期 (2014年3～11月)	2016年2月期 (2015年3～11月)	増減率(%)	2015年2月期 (2014年3～11月)	2016年2月期 (2015年3～11月)	増減率(%)
①映画事業	98,058	<b>116,778</b>	19.1% <span style="color:red">↑</span>	14,115	<b>21,126</b>	49.7% <span style="color:red">↑</span>
映画営業	27,638	<b>40,425</b>	46.3% <span style="color:red">↑</span>	5,603	<b>9,523</b>	69.9% <span style="color:red">↑</span>
映画興行	49,260	<b>55,411</b>	12.5% <span style="color:red">↑</span>	5,510	<b>7,614</b>	38.2% <span style="color:red">↑</span>
映像事業	21,158	<b>20,940</b>	1.0% <span style="color:green">↓</span>	3,001	<b>3,988</b>	32.9% <span style="color:red">↑</span>
②演劇事業	9,792	<b>11,444</b>	16.9% <span style="color:red">↑</span>	1,760	<b>2,608</b>	48.1% <span style="color:red">↑</span>
③不動産事業	43,715	<b>46,070</b>	5.4% <span style="color:red">↑</span>	10,089	<b>11,044</b>	9.5% <span style="color:red">↑</span>
不動産賃貸	21,947	<b>24,002</b>	9.4% <span style="color:red">↑</span>	7,856	<b>8,795</b>	12.0% <span style="color:red">↑</span>
道路事業	15,125	<b>14,853</b>	1.8% <span style="color:green">↓</span>	1,615	<b>1,563</b>	3.2% <span style="color:green">↓</span>
不動産保守・管理	6,643	<b>7,214</b>	8.6% <span style="color:red">↑</span>	618	<b>685</b>	10.9% <span style="color:red">↑</span>
④その他事業	744	<b>737</b>	1.0% <span style="color:green">↓</span>	65	<b>58</b>	9.4% <span style="color:green">↓</span>

# セグメント別業績【映画事業】



## 業績分析（増減要因）

- 『バケモノの子』『HERO』『進撃の巨人 ATTACK ON TITAN』『ジュラシック・ワールド』などの夏休み公開作品が引き続き高稼働したほか、当第3四半期中に公開された『アンフェア the end』『図書館戦争 THE LAST MISSION』『バクマン。』などが堅調な成績を収めたことにより映画営業事業は前年同期比で増収増益。
- 上記のほか、『劇場版 MOZU』『ギャラクシー街道』(共に当社配給)『テッド2』(東宝東和配給)『ヒロイン失格』『マイ・インターン』(共にワーナー配給)『アントマン』(ウォルト・ディズニー配給)など、秋公開の各作品が健闘した結果、映画興行事業は前年同期比で増収増益。
- パッケージ事業において『血界戦線』のサントラCD販売が2万枚のヒットを記録し、出版・商品事業では、夏休み作品のほか、『図書館戦争 THE LAST MISSION』『バクマン。』のパンフレット・グッズ販売が好調な売上が記録。アニメ制作事業では、製作出資したTVアニメ『干物妹(ひもうと)！うまるちゃん』が業績に寄与したことで映像事業は前年同期比で減収となるも増益を確保。

# 映画－第3四半期 稼働作品－

## 当社配給作品 興行成績ベスト5

※2015年12月末日時点

	作品名	公開月	興行収入
1	『アンフェア the end』	2015年9月	23.6億円
2	『図書館戦争 THE LAST MISSION 』	2015年10月	18.0億円
3	『バクマン。』	2015年10月	17.6億円
4	『進撃の巨人 ATTACK ON TITAN エンド オブ ザ ワールド』	2015年9月	16.8億円
5	『ギャラクシー街道』	2015年10月	12.9億円



『アンフェア the end』

©2015 関西テレビ放送／フジテレビジョン／  
 ジャパン・ミュージックエンターテインメント／  
 東宝／共同テレビジョン



『進撃の巨人 ATTACK ON TITAN  
 エンド オブ ザ ワールド』

©2015 映画「進撃の巨人」製作委員会  
 ©諫山創／講談社



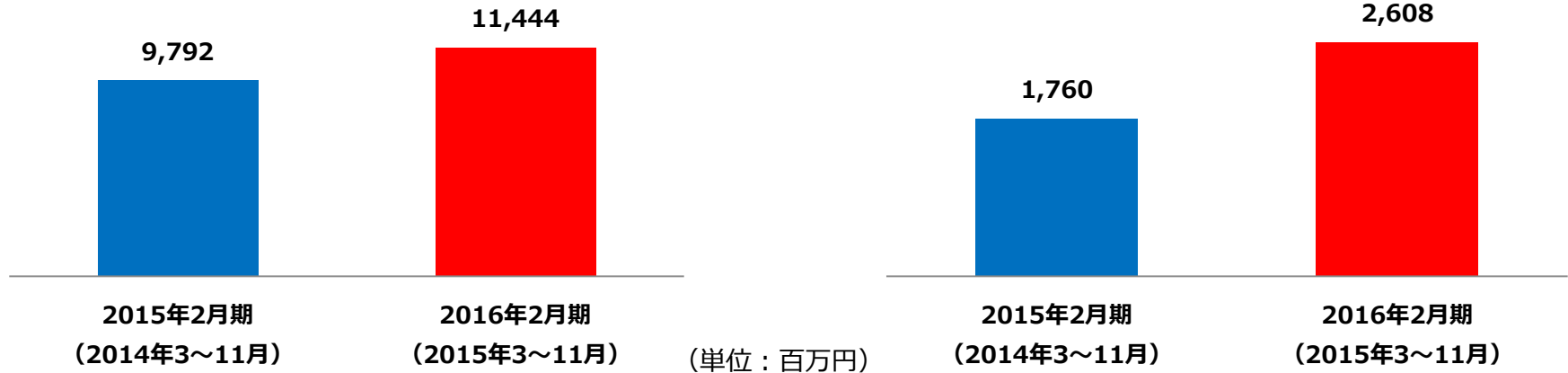
『バクマン。』

©2015映画「バクマン。」製作委員会

# セグメント別業績【演劇事業】

営業収入

営業利益



## 業績分析（増減要因）

- 帝国劇場では、『DREAM BOYS』(9月公演)が完売となる大盛況の後、松本幸四郎主演の不朽の名作『ラ・マンチャの男』(10月公演)、熱狂的ミュージカル『ダンス オブ ヴァンパイア』(11月公演)も好評を博して堅調に推移。
- シアタークリエでは、待望の再演となった人気ミュージカル『RENT』(9~10月公演)が連日満員の高稼働を記録した後、仲間由紀恵を主演に迎えた『放浪記』(10~11月公演)が大入り、つづく竹中直人・生瀬勝久主演『ブロッケンの妖怪』(11月公演)も堅調に推移。
- 日生劇場では、人気グループA.B.C-Zが主演の『A B C座 2015』(10月公演)が全席即日完売の大入りを記録。

# 演劇 – 第3四半期 稼働作品 –



帝国劇場公演 ミュージカル『ラ・マンチャの男』



シアタークリエ公演 『放浪記』

ABC座  
2015

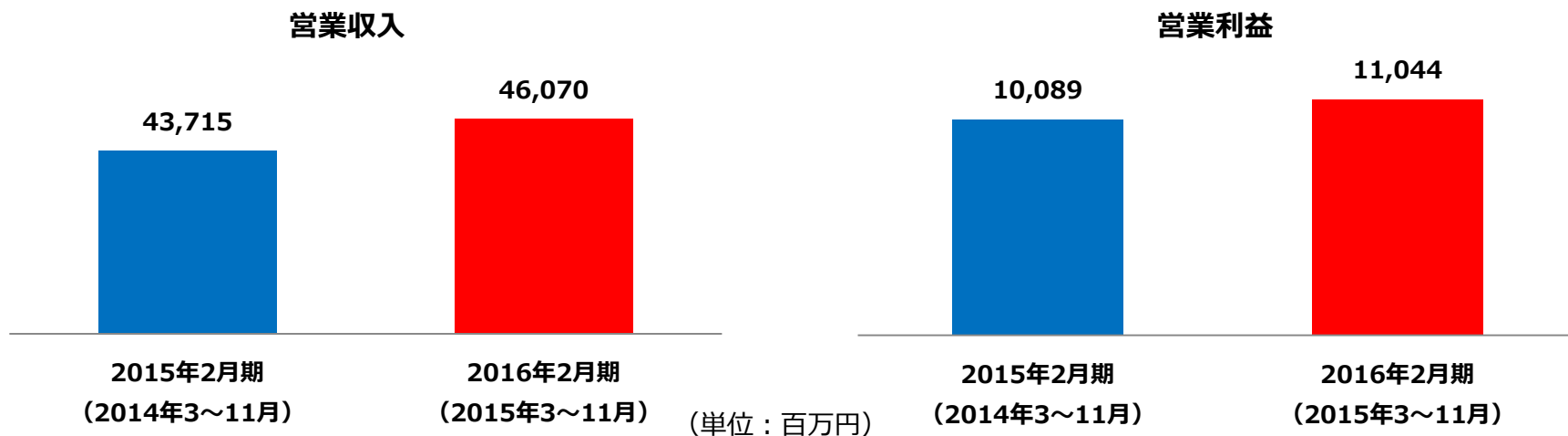
日生劇場公演 『ABC座 2015』



帝国劇場公演 ミュージカル『ダンス オブ ヴァンパイア』



# セグメント別業績【不動産事業】



## 業績分析（増減要因）

- 不動産賃貸事業では、4月に開業した「新宿東宝ビル」が主要テナントの「TOHOシネマズ新宿」を中心に順調に稼働し、収益に寄与。また、11月には「札幌東宝公楽ビル」が開業。東宝スタジオでは、映画『シン・ゴジラ』『海賊とよばれた男』など当社配給作品を中心に撮影が行われたほか、CM撮影の誘致により順調に稼働。
- 道路事業では、スバル興業(株)が道路の維持・管理、清掃・補修工事の受注等、堅調に推移したものの、公共事業投資額が前年度比では減少していることもあり前年同期比で若干の減収減益。
- 不動産保守・管理事業では、(株)東宝サービスセンター、東宝ビル管理(株)において労務費や資材価格の高騰など厳しい経営環境が続く中、新規受注とコスト削減に取り組んだ結果、前年同期比で増収増益。

## 映画 & 演劇 話題の待機作品



# MOVIE LINE UP



2016年1月23日（土）全国東宝系にてロードショー

あの人気ドラマが、遂に劇場版で迎える最終章！  
1582年——本能寺で何が起こるのか！？

## 『信長協奏曲（のぶながコンツェルト）』

監督：松山博昭

出演：小栗旬 柴咲コウ 向井理 山田孝之 ほか

©石井あゆみ／小学館 ©2016 フジテレビジョン 小学館 東宝 FNS27社



2016年3月5日（土）全国東宝系にてロードショー

史上最大の家出！？ 7万年前の日本を舞台に、  
ドラえもん史上最大のスケールで贈る、大冒険エンターテインメント！！

## 『映画ドラえもん 新・のび太の日本誕生』

原作：藤子・F・不二雄 監督・脚本：八鍬新之介

©藤子プロ・小学館・テレビ朝日・シンエイ・ADK 2016



2016年3月19日（土）・4月29日（金・祝）二部作連続ロードショー

累計発行部数1500万部突破。青春マンガの大本命、感動の二部作で  
ついに映画化！ 競技かるたに懸ける千早たちの熱い夏が始まる——。

## 『ちはやふる -上の句・下の句-』

監督・脚本：小泉徳宏

出演：広瀬すず 野村周平 真剣佑 ほか

©2016映画「ちはやふる」製作委員会 ©末次由紀／講談社

# STAGE LINE UP



2016年2～3月帝国劇場公演  
『Endless SHOCK』



2016年2～3月  
シアタークリエ公演

『ピアフ』

2016年3月  
東京国際フォーラム公演

ミュージカル  
『ジキル&ハイド』



2016年4月  
シアタークリエ公演

ミュージカル  
『エドウィン・ドルードの謎』



# 1株当たりの配当予想

## 2016年2月期（第127期）配当予想の修正に関するお知らせ

当期の実績は、主力の映画事業が好調に推移していることに加え、演劇事業、不動産事業もそれぞれ順調に業績を伸ばし、目標を上回る見通しとなっております。こうした状況を踏まえ、2016年2月期の1株当たりの期末配当金は、当初の12.5円予想から特別配当5円を増額し、17.5円に修正することといたしました。この結果、1株当たりの年間配当金は30円となる予定です。

	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期 末	合 計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2014年2月期	—	5.00	—	15.00	20.00
2015年2月期	—	5.00	—	20.00	25.00
2016年2月期（実績）	—	12.50	—	—	—
2016年2月期（予想）	—	—	—	<b>17.50</b>	<b>30.00</b>

# 2016年2月期 業績予想

	2015年2月期 通期（実績）	2016年2月期 通期（予想）	対前期増減率
営業収入	2,069億円	<b>2,250億円</b>	<b>8.7%</b> ↑
営業利益	317億5千9百万円	<b>375億円</b>	<b>18.1%</b> ↑
経常利益	341億4千9百万円	<b>400億円</b>	<b>17.1%</b> ↑
当期純利益	224億7千9百万円	<b>245億円</b>	<b>9.0%</b> ↑

※直近に公表されている業績予想から修正しております。

# 本資料におけるご注意

本資料の内容には将来に対する見通しが含まれておりますが実際の業績は様々な状況変化や要因により、見通しと大きく異なる結果となり得ることがあり、保証を与えるものではありませんのでご了承ください。  
また、本資料の無断転載はお断りいたします。



**東宝株式会社**

本資料に関するお問合せ  
総務部 広報・IR室  
TEL. 03-3591-1303